

第73次 印旛地区教育研究会

国語 「読むこと」分散会 提案資料

研究主題

自分の考えや思いを主体的に表現し、協働的に
学習できる生徒の育成

八街市立八街中央中学校 藤江 智美

目次

1. 研究主題

2. 主題設定の理由

3. 研究仮説と手立て

4. 実践例

5. 成果と課題

1. 研究主題

自分の考えや思いを主体的に表現し、協働的に学習できる生徒の育成

2. 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

現行の学習指導要領に示されている国語科の目標では、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」を目標としている。今回の研究においては、文学教材の学習を通して、中学校第1学年の「C読むこと」に関する目標である「(1) イ. 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。」「(1) ウ. 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈すること。」「(1) エ. 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。」「(1) オ. 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。」に迫り、生徒に読む力をつけさせたいと考えた。これらを「(2) イ. 小説や随筆などを読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。」という言語活動を通して指導することを目指した。

(2) 学校教育目標から

八街中央中学校は、「豊かな人間性とたくましく生きる力を身につけた生徒の育成」を目標として、「自ら学び、考えたことを表現できる生徒(知)」「感謝する心を持ち、他者を思いやれる生徒(徳)」「健康で安全な生活を実践できる生徒(体)」を目指す生徒像としている。学習面では「自ら学び、考えたことを表現できる生徒(知)」を目指す。自ら学び考えたことを確認したり深めたりするためには、協働的な学習活動から多くを学び、そこから学んだ経験が、主体的に表現しようとする姿勢につながると考える。従って、主体的に表現しようとする姿勢は、協働的な学習活動での達成感に後押しされて育つと考える。生徒同士が安心して意見交換できる環境は教科の学習においても「感謝する心を持ち、他者を思いやれる生徒(徳)」を目指すことが必要となる。

(3) 生徒の実態から

千葉県標準学力検査の結果では、千葉県の平均点に対して、観点で5点～10点、領域別では6点～12点低い。中でも読むことの平均点は12点下回っている。この差は、八街中央中の生徒が、言葉に込められた意味を様々な角度から考えてみようとしていたり、言葉を交換することによって理解を深められたり、自分の意図したことが言葉で伝わる経験を必要としている実態を示すと考えられる。

読む力とは、言葉を単語で理解するだけではなく、呼応し合う言葉に込められた意味を捉えたり、想像したりして自分の中で解釈していく力で、語句や漢字、言葉のきまり(文法)の知識を駆使しながら、呼応し合っている言葉が含む意味を受け取る力、それを自分が解釈した形に言い換える力、言い換えたものを話したり文章にして表現する力が、総合的に発揮される必要がある。思考した過程を言葉で表現したときに、評価することができるようになる。視野を広げるのに最適な時期を生きている生徒達は、主体的であっても独自の考えや解釈にとどまってしまうたり、自分の思いを的確に言葉で表現できていなかったりする。多様な価値観をもつ生徒同士が協働的な学びの時間をもつことで、国語教育の目的に近づき、生涯考え表現し試行錯誤して成長を続ける人間の育成につながるのではないかと考える。生活環境や生育歴のなかで培われる言語感覚は、国語力の基礎となっているが、学校教育の中で協働的な学習活動を行うからこそ育つ力がある。授業中に引き出す、主体的に読み、表現しようとする意欲や、協働的な活動の中から学ぶことの意味は、八街中央中の生徒にこそ必要な学びではないかと考える。

3. 研究仮説

仮説 (1)

自ら学習課題を設定し、自分の考えや思いを主体的に表現しようとすることで、読みが深まるであろう。

〈手立て〉 ①初発の感想から、登場人物の心情に迫る課題を見出す。

②初発の感想を共有して全体で学習する課題を設定し、根拠となる描写を示しながら、課題に対する考えを深める手立てを学習する。

③個人の課題を設定し、情景や心情の描写を基に思考した過程を、文章で表現する。

仮説 (2)

課題について、描写を基に考えたことの意見交換を行い、様々な考え方に触れる協働的な学習を通して、登場人物や情景描写をより深く読もうとする姿勢が育つであろう。

〈手立て〉 ①課題について描写を基にして考えたことを小集団で意見交換する。

②課題について思考した過程を言葉で表現し、互いの文章を読みあう。

③課題についてまとめた文章を読み合い、感想や意見を伝え合う。

4. 実践例

令和4年度に1年生の文学教材で実践を行った。課題を立てて文章を読み、考えたことを伝えたり話し合うことで自己の視野を広げ、考えを深める学習を行った。課題について考える過程で小集団での意見交換を行い、その上で、各自が課題についての考えを文章にまとめていく。その文章を互いに読み合うことで、次の学習への意欲が育つと考えた実践である。

(1) 文学的文章の学習・指導計画

	主となる学習活動	指導の目的 (◎) と留意点 (●)
1次	①物語を読んで内容を捉え、感想を書く。 ②言葉の意味や言い回し、情景描写の表す意味を捉える。 ③疑問を基に課題を立てる。	◎物語の設定や内容を把握し、登場人物の心情を考えさせる。 ●心情を描写している文章に注目しながら、物語の内容を捉え、登場人物の心情を考えるようにする。 ◎登場人物の心情に迫ることを意識して課題を立てさせる。 ●登場人物がどのように設定されているか、心情や情景の描写に注目して課題を立てるようにする。
2次	①全員で課題について考え、意見交換する。 ②自分の考えをまとめる。	◎全員で同じ課題について考え、意見交換をしながら文章に描写された内容をどう解釈するか、考え方を学習させる。 ●多様な読み取り方を知り、自己の捉え方に生かすようにする。 ◎全員で同じ課題について考え、意見交換した内容を自分はどう考えたか整理させる。

		<ul style="list-style-type: none"> ●多様な読み取り方を知り、自己の捉え方に生かして文章表現に生かすようにする。
3次	<p>①各自で課題について描写を基に考え、文章にまとめる。</p> <p>②互いの文章を読み合って、感想や意見を書き込み、課題について意見交換する。</p>	<p>◎課題について、描写を基に各自で考え、その内容を文章にまとめさせる。</p> <p>●課題について自分はどうか考えたか、他者に理解してもらえようように工夫して文章にまとめるようにする。</p> <p>◎感想や意見を交換して、共感することや解釈の違いがあることと、表現の工夫について学ばせる。</p> <p>●他者の文章を読んで、課題に対する捉え方と、文章表現の工夫に注目し、自分の意図が伝わりやすい言葉を選んで感想や意見を書き込むようする。</p>
4次	①学習を振り返る。	<p>◎意見交換した過程と、自分の考えを文章にまとめた過程で、感想や意見にどのような変化があったか振り返り、次の学習に生かそうとする姿勢を育てる。</p> <p>●意見交換した過程と、他者の文章を読んだり、感想や意見の書き込みを読んで、自己の学習過程を振り返り、改善点や工夫の仕方について考えるようにする。</p>
1時間		

(2) 実践

①『オツベルと象』 宮沢賢治 (2学期) 8時間

	学習活動 (学習形態)	準備するもの	留意点
1次	①CDによる朗読を聴いて情景を思い浮かべながら読む。(一斉)	朗読CD	
2時間	②ノートにまとめた感想を伝え合い、オツベルや白象の設定について話し合ったり、わからない言葉の意味を調べて伝え合う。(一斉・小集団)	国語辞典	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉授業の形態で行いながら、疑問に思ったことを近くの者同士で話し合ったり、4人班で意味調べを行うようにする。
	③疑問に感じたままになった情景や、オツベルや白象の心情について考え、課題を立てる。(個人)		<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な意見交換や語句の意味調べでは解決しなかつた点に注目させ、自分が疑問に思ったこと大切にできるようにする。
2次	<ul style="list-style-type: none"> ・課題一覧を提示する。(※①) <p>①課題が立てられた場面を読んで、全員で同じ課題について考えて伝え合う。(一斉・小集団)</p>	課題を一览にしたプリント	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を場面ごとに分けて提示し、登場人物の変化に焦点をあてて考えるようにする。 ・課題について考える根拠となる描写を見つけて教科書に線を引き、その部分を基にして考えたことを伝えるようにする。
2時間			

	②「なぜ、白象なのか。」について全員で考えることとし、自分の考えをまとめる。(個人)		・象が人の言葉を話したり、白象がオツベルの所へやってきたのは、自分の意志であったことなど、設定としては解決できるが、物語の大きな主題としてどう考えればいいのかを生徒に問いかける。
3 次 時 間	①「なぜ、白象なのか。」について、教科書の描写を基にして考え、文章にまとめる。 ②「なぜ、白象なのか。」について考えた互いの文章を読み合って、感想や意見を書き込み、伝え合う。※③	レポート用紙 ※② 国語辞典	・自分がどの場面や描写を基にして考えを導き出したのかわかるように、物語の文章を引用しながら、説明するようにする。 ・他者が読むことをあらかじめ知らせ、意識するようにする。
4 次 時 間	①「なぜ、白象なのか。」について考えたり、他者の意見を読んだりした学習を振り返る。		・自分の考えをまとめ、他者を意識した文章に仕上げる過程から、学んだことを振り返るようにする。 ・教師による添削と評価を加えて次回の学習への課題意識を持てるようにする。

②『少年の日の思い出』ヘルマン ヘッセ (2学期) 9時間

	学習活動 (学習形態)	準備するもの	留意点
1 次 時 間	①CDによる朗読を聴いて情景を思い浮かべながら読む。(一斉)	朗読CD	
2 時 間	②ノートにまとめた感想を伝え合い、少年とチヨウ、エーミールの設定について話し合ったり、わからない言葉の意味を調べて伝え合う。(一斉・小集団) ③情景や登場人物の行動の描写から、少年とエーミールの心情とその変化について考え、課題を立てる。(個人)	国語辞典	・一斉授業の形態で行いながら、疑問に思ったことを近くの者同士で話し合ったり、4人班で意味調べを行うようにする。
2	※課題一覧を提示する。 ①課題について考え、意見を交換しながら、	課題を一覧にしたプリント	・課題を場面ごとに分けて提示し、情景の描

<p>3 時間</p> <p>少年がエーミールに対して抱く感情が明らかにされる場面までの情景や行動の描写が、少年の心情や心情の変化をどのように表現しているか考えて伝え合う。(一斉・小集団)</p> <p>②主人公がエーミールのヤマユガを一目見ようとした場面について、登場人物の心情に迫るための課題を立てる。(個人)</p>	<p>※④</p>	<p>写に焦点をあてて登場人物の心情を考えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠となる描写を見つけて教科書に線を引き、その部分を基にして考えたことを伝えるようにする。 登場人物の描写を基に心情に迫り、文章にまとめて読みあい学習を行うことを意識するようにする。
<p>3 時間</p> <p>①登場人物の心情に迫るために自分で立てた課題について、教科書の描写を基にして考え、文章にまとめる。</p> <p>②各自が取り組んだ、課題についてまとめた文章を読み合って、感想や意見を書き込み、伝え合う。</p>	<p>レポート用紙 ※⑤ 国語辞典</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分がどの場面を基にして考えを導き出したのかわかるように、物語の文章を引用しながら、説明するようにする。 自分が注目した場面の概要、課題解決のために注目した部分、導き出した考え、の三つの要素を備えた文章にまとめてあげるようにする。 ※⑥ コメントの書き方については、感想や意見を読んだ自分の意図が伝わることと、それを読んだ相手にとつて次の学習につながるような言葉遣いに気をつけるようにする。 (例示した文末) ～ということがわかりました。 ～は、私も感じたことです。 ～について私は、～と考えました。
<p>4 時間</p> <p>①各自が取り組んだ課題についてまとめた互いの文章を読み合って考えたり、他者の意見を読んだりした学習を振り返る。 ※⑦</p>		<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめ、他者に読まれることを意識した文章に仕上げる過程から学んだことを振り返るようにする。 教師による添削と評価を加えて次回の学習への課題意識を持てるようにする。

5. 成果と課題

(成果)

- ①自らが立てた課題について考えることは、語句を調べたり、意見交換をする意欲につながっていた。
- ②話しやすさを優先したグループで意見交換したので、構えずに意見を言い合うことができた。
- ③意見交換や、読みあい学習を通じて他者の意見にじっくり向き合えたと感じる生徒が多かった。

④読みあい学習を通じて、文章で自分の考えを伝えよう意識することや、自分の意図したことが伝わってよかったと感じる生徒が多かった。

④実践②で、自分の考えたことを人に伝えようと工夫する面白さを感じ、次の学習に意欲を持った生徒がいた。

⑤文章を書くのが苦手な生徒、時間内に書き終えられなかった生徒もいたが、読みあい学習に参加し、コメントを入れてもらったことと、他者の文章を自由に読めることが、自分の参考になると感じる生徒がいた。

〈課題〉

①小集団での話し合いが反映されただかどうかについて、十分に確認できなかった。小集団の考えを示しあつて、全体でさらに深く考える協働的な学習に発展させたい。

②実践①では、課題のたて方についての指導が不十分で、登場人物の心情や作品の主題に迫ろうとする意識が低かった。実践②では、課題を立てて取り組むことで、登場人物の心情をより深く考えようという意識を持たせるようにした。

③自分の考えを十分に表現できていないと感じる生徒に対して、接続詞を有効に使うことや、ひとつの事柄を、言い換えながら重ねて表現する工夫の指導を行っていきたい。

④文章を書く前に示した教師モデルの文章は、いくつかの例を用意するとよかった。日本語に不慣れた生徒や、自分の考えをうまく表現できないと感じている生徒にも、意欲をもって取り組めるようさらに工夫していきたい。「成功」とまではないかなくても、書き上げた文章の満足度をあげていくことで、「どう考えて、どう表現するか」という、生徒個々の模索につなげていきたい。

⑤「意欲的に話し合う。」ことに重点を置いたグループ学習になっていた。互いの相違点や、共通点をさらに掘り下げる話し合いができるように指導を工夫し、より有意義な協働的学習を目指したい。

⑥2年生になってから、『タオル』(重松 清)の学習を行った。教科書に線を引き、同じものに対する描写の変化が人物の心情の変化を表す様子を、全員で確認した。2学期は『夏の葬列』、3学期は『走れメロス』の学習で読みあい学習を取り入れていく。同じ課題に取り組むグループの活動を充実させて行きたい。また、自分の考えを文章化するために説明的文章の構成が参考になること、接続語や助詞の使い分け、自分の考えを言い換えて表現するための語彙力など、日々の授業で学習していることとのつながりを意識させていきたい。

資料料

※③・⑦については、後日ご覧いただけます。

資料①
学習課題一組

- なぜ川へ入っちゃいけないのか。
- キリスト教の神と仏教の神が出てきているのはなぜか。
- なぜ日曜だけなのか。
- ★○なぜ月がしゃべったのか。
- ★○なぜ象と月が人の言葉を話すのか。
- ★○なぜハクゾウは話せるのか。また、なぜオツベルと会話で
きるのか。
- ◇○なぜ肺が悪くなるのにパイプを吸っていたのか。
- ◇○なぜ象はわらを食べるのか。

学習課題二組

- ★○なぜ月や象はしゃべるのか。
- ☆○なんで象は真っ黒になったのか。
- なぜ、川に入っちゃいけないのか。

学習課題四組

- ☆○なんで象は白いのか。
- ◇○モミが当たっているのに笑っているのはなぜか。
- ◇○なぜグララアガアというのか。
- ★○なぜサンタマリアを知っているのか。
- ★○なぜハクゾウは人間のようなことができるのか。
- ◇○なぜ牛飼いはすべてを知っているのか。
- どこら辺の国でいつの時代か。
- ★○月はなぜしゃべるのか。
- なぜ最後に急に川の話になったのか。
- サンタマリアはなぜ象を助けたのか。
- ◇○象はどうやって字を書いたのか。

- ☆・・・色を示す表現からどう読み取るか考える課題につながる。
- ★・・・擬人化された表現についての疑問から、課題につなげられる。
- ・・・作品の背景を知る必要がある課題につながる。
- ・・・語り手について考える課題につながる。
- ◇・・・豊かに想像したり、物語をよく読んで解決できそうな課題。

一 糸目

① なぜ僕はチヨウ集めに夢中になった「ぼく」か。
 ② なぜ僕はチヨウ集めに好きになったのか。
 ③ なぜ僕はチヨウ集めにひどく心を打ち込んだのか。
 ④ なぜ僕は、チヨウ集めに夢中になったのか。
 ⑤ なぜチヨウ集めに夢中なぼくは、自分の妹たちだけに見せる習慣になったのか。
 ⑥ なぜぼくは、自分が集めたチヨウを周りに見せなかつたのか。

① なぜコムラサキを捕らえた「ぼく」か。
 ② なぜコムラサキを見つけたとき、隣の子に見せに行つたのか。
 ③ なぜコムラサキを捕らえたぼくは、隣の子に見せる気になつたのか。
 ④ なぜぼくは、模範少年を憎んだのか。

① なぜエーミールの家の戸が開いていたのか。
 ② なぜぼくは、家に入ったのか。
 ③ なぜぼくは、エーミールのチヨウを盗んだのか。

④ なぜぼくは、突然良心を思い出したのか。
 ⑤ なぜぼくは、盗みをしたという気持ちより自分でつぶしたチヨウをかわいそうだと思つたのか。

⑥ なぜエーミールは怒らなかつたのか。
 ⑦ なぜエーミールは、ヤママユガを壊されたのに冷静でいられたのか。
 ⑧ なぜエーミールは標本を壊したのか。
 ⑨ なぜぼくは、最後まで、続けてきたチヨウチヨウの収集を終わらせたのか。
 ⑩ なぜぼくは、続けたチヨウチヨウの収集を終わらせたのか。

二 糸目

① なぜチヨウ集めに夢中になつた「ぼく」か。
 ② なぜチヨウ集めを始めたのか。
 ③ やめなかつたのか。
 ④ チヤイムも聞かぬのか。
 ⑤ チヨウを集めると、チヨウチヨにはまつていたのか。
 ⑥ チヨウを仲間に見せないのにも食べたり集めたのか。
 ⑦ チヨウを自分の妹だけに見せるようになったのか。
 ⑧ 評判になるような獲物を内緒にしてしまふのか。

① なぜコムラサキを捕らえた「ぼく」か。
 ② なぜ少年にだけコムラサキを見せたのか。
 ③ なぜ子どもを憎んで悪徳だと知つて見せたのか。
 ④ エーミールを妬み、嘆いたながら憎んでいたのか。
 ⑤ エーミールを妬み、嘆いたが、点だと思つたのか。
 ⑥ 足が欠けてるのを教えられただけで傷つたのか。
 ⑦ 欠陥のある部分を認められただけで、癖をつけたのか。
 ⑧ なぜ先生の子は、ぼくが捕まえたコムラサキの難癖をつけ始めたのか。

① なぜ「ぼく」か。
 ② エーミールが好きなのか。
 ③ ヤママユガが見たのか。
 ④ エーミールの熱烈にほしがつたのか。
 ⑤ 自己の欲望に負けてしまつたのか。
 ⑥ 盗みを犯したときに満足感のほかに何も感じなかつたのか。
 ⑦ チヨウを盗んだときに、罪悪感を感じなかつたのか。
 ⑧ 急に自分が下劣なヤツだと悟つたのか。

四組

- ⑨ なぜぼくは、出かける気になれなかったのか。
- ⑩ なぜぼくは、ぼくを怒鳴りつけたのか。
- ⑪ なぜぼくは、チヨウを指でこなごなに押しつけたのか。
- ⑫ なぜぼくは、チヨウを一つ一つバラバラにしたのか。

- 〓 A チヨウ集めに夢中になった「ぼく」
- ① なぜぼくは、チヨウチヨ集めを始めたのか。
- ② なぜぼくは、チヨウチヨのとりこになったのか。
- ③ なぜぼくは、胸がどきどきしたのか。
- ④ なぜぼくは、チヨウチヨに夢中だったのか。
- ⑤ なぜ主人公は、チヨウチヨ集めに依存してしまったのか。
- ⑥ なぜぼくは、学校をさぼったか。
- ⑦ なぜぼくは、チヨウチヨを古いつぶれたボール紙にしまわないといけなかったのか。

- 〓 B コムラサキを捕らえた「ぼく」
- ① なぜぼくは、コムラサキを捕まえたのか。
- ② なぜぼくのチヨウは状態が悪かったのか。
- ③ なぜぼくは、コムラサキを展翅したとき、欠陥に気づかなかったのか。
- ④ なぜぼくは隣の子にコムラサキを見せようとしたのか。
- ⑤ なぜエーミールは「悪徳」なのか。
- ⑥ なぜぼくは先生の息子が気味悪いと思ったのか。

- 〓 C ヤママユガと「ぼく」
- ① なぜぼくは、ヤママユガを盗もうとしてしまったのか。
- ② なぜぼくは、盗みを犯してまでヤママユガが欲しかったのか。
- ③ なぜぼくは、家の入り口に立ち止まったか。
- ④ なぜぼくは、母にヤママユガのことを言ったのか。
- ⑤ なぜエーミールは、あまり怒らなかったのか。
- ⑥ なぜ食堂にチヨウは、あまのり集が置いてあったのか。
- ⑦ なぜぼくは、チヨウの収集が置いてあったのか。
- ⑧ なぜぼくは、指でチヨウチヨをこなごなにしまったのか。

五組

- 〓 A チヨウ集めに夢中になった「ぼく」
- ① なぜぼくは、急にチヨウチヨ集めのとりこになったのか。
- ② なぜぼくは、道具を両親から買ってもらえなかったのか。
- ③ なぜぼくは、自分の妹たちだけに見せるようになったのか。

- 〓 B コムラサキを捕らえた「ぼく」
- ① なぜぼくは、先生の息子が性格が悪いと知って彼に見せたのか。
- ② なぜぼくは、嫌いな少年だけにコムラサキを見せたのか。
- ③ なぜぼくは、非の打ちどころがない悪徳をもっていたエーミールにチヨウチヨを見せようとしたのか。
- ④ なぜエーミールは、現金の値打ちはあると言ったあと、難癖をつけ始めたのか。
- ⑤ なぜぼくは、二度とエーミールに獲物を見せなかったのか。

- 〓 C ヤママユガと「ぼく」
- ① なぜぼくは、何のためらいもなくヤママユガを盗んだのか。
- ② なぜぼくは、良心が目覚めたのに戻らなかったのか。
- ③ なぜぼくは、家の入り口に立ち止まったのか。
- ④ なぜエーミールは、ぼくを怒鳴りつけたのか。
- ⑤ なぜエーミールは、チヨウをとったのか。
- ⑥ なぜエーミールは、怒らなかつたのか。
- ⑦ なぜエーミールは、激怒しなかつたのか。
- ⑧ なぜぼくは、自分のチヨウチヨを指でこなごなにしまったのか。
- ⑨ なぜぼくは、最後にチヨウチヨをつぶしたのだろうか。

◎課題について考えたことを書き、読み合い感想を伝え合うことで登場人物の心情に迫ろう。

〈今回は、努力目標です。頑張ってください〉

①三つの意味段落で構成されていると良い。

②一段落には、課題が設定された内容を簡潔にまとめて書くが良い。

③二段落には、結論を見つける手がかりとなった部分をまとめて引用し、自分がどのように考えをまとめたかを書くが良い。

④三段落では、課題に対して自分が考えた結論を、まとめて書くが良い。

◎課題

なぜ「ぼく」は、チヨウチヨ集めのとりこになったか。

「ぼく」は、八つか九つの時に、チヨウチヨ集めを始めた。初めは、はやりについた程度だったが、次第にチヨウチヨ集め以外のことが疎かになり、まわりのひとたちがやめさせなければならぬと考えるほどになつていく。

「ぼく」が、初めてキアゲハに忍び寄ったときの熱情は大人になつてからも忘れられるものではなく、友人の家でチヨウチヨを見せてもらったときもそのように語っている。

チヨウチヨを見つけて忍び寄るときの緊張と歓喜の感覚は、子どもだけが感じられるものであった。しかし、「ぼく」の両親は「ぼく」が満足できるような道具を与えてくれなかった。「ぼく」が、チヨウチヨ集めに夢中になりすぎることと心配したのかもしれない。そのため「ぼく」は、仲間に自分の収集を見せることもなくなり、「ぼく」のチヨウチヨの収集は、仲間と喜びを分かち合うという点で、満たされなかったのかもしれない。チヨウチヨの美しさや捕らえるときの喜びとともに、満たされない部分があったことは、「ぼく」にチヨウチヨへの執着を強め、とりこにして離れられないものとなつていったのではないだろうかと考える。

・コメント

・振り返り